

〈人権教育教材集〉子どもの思いに触れながら ～小学校低学年～

教材集	教材名	主な内容
第一集 1998.10.27合冊 (No.1～No.8)	いっしょにかえったよ	バギーに乗るあきらと、あきらのおばちゃんといっしょに帰る子どもたちの楽しそうな様子を、ようこが書いた絵日記。
	ごめんと いえんだ	友達にいたずらをしてけんかになり、相手の子を泣かした後、気にしているが言葉をかけられなかったぼくの話。
	じいちゃんのたんじょう日パーティー	目と耳が不自由なじいちゃんの誕生日を、家族みんなでお祝いしている様子を書いた作文。
	しめたら だめや	障害を持つかおりちゃんが、雨の日教室から飛び出し廊下でねころんで大声を出し始めた。その姿を見た教室の子どもたちの様子。
No.9	やっちゃんのさくぶん	小学校1年生のやっちゃんの作文。前半は自分のこと、後半はたかちゃんのことをプラス・マイナス両方から素直に書いている。
No.10	いやなんだから、やめて！	障害のあるまーちゃんが上級生からいじめられ、「やめて」といったえりこ。「パーカ」といわれながらまーちゃんの気持ちを思いやる。
No.11	だれもあそんでくれなくなった	いつも一人図書室で本を読むひろし。ある日作文で遊び相手がいないこと、いじめられるときもあることなど書いていた。
2003年度版 教材集 (No.12)	「さえちゃん、やめて！」	障害のあるさえちゃんに鉛筆でうでをつかれたあゆみさんに、先生はやめてとはっきり言うようにいう。
2004年度版 教材集Ⅱ (No.13)	かずみのきもち	自分からほとんど話さないかずみ。本を読んであげたが、怒った顔をするかずみの気持ちを考える。
2006年度版 教材集Ⅲ (No.14)	なんでたたくんや	自分のペースを大切にしようとするたさん。友達がかかわってペースが変わるとイライラして友達をたたいたりする。どうかかわばいいかわからない子どもたちへの先生の一言が、相手の気持ちを考え感じとっていき子にかえていく。
2009年度版 教材集Ⅳ (No.15)	かず子さんの きもち	

〈人権教育教材集〉子どもの思いに触れながら ～小学校中学年～

教材集	教材名	主な内容
第一集 1998.10.27合冊 (No.1～No.8)	全員リレー	運動会で、みんなが走る全員リレー。よっちゃんの班はいつもびりになる。当日一人で走りきるよっちゃんのうれしそうな様子。
	アキはかわいそうな子かな	障害を持つアキのお母さんがみんなにアキのことを話す。
	ほんとは、いっぱいほしい	あつしは遊びのじゃまをよくする。ある日、あつしは「つらいこと」という題名でいじめられることや友達がほしいことを作文で書く。
	ふみ子の日記	肩にやけどのあるふみとが書いた日記。悪口をいう友達のこと、乱暴なゆうちゃんのことなど自分の思いをつづる。
No.9	「バカや！パンツぬいだ！」	なかなかうまく着替えられないかずおが、ズボンといっしょにパンツまでおろしてしまうことをからかう子どもたちの話。
No.10	おこるの当たり前や	「乱暴な子」と決めつけでみられているみのるだが、ある日の事件を担当は子どもどうしの関係の中での問題としてとらえ言葉をかける。
No.11	「しょうへい、すわれ！」	授業中も教室を歩き回るしょうへいは注意されるようになって午前中ずっとすわっていたが立ち上がってしまう。学級の意見が分かれる。
2003年度版 教材集 (No.12)	つらいことがあるのは、ぼくぐらいかと思った	皮膚の病気を持つ森山さんはつらい思いをしていたが、「つらかったこと」の作文をきっかけに他の人の心に秘めた思いを知る。
2004年度版 教材集Ⅱ (No.13)	ひとりでいるのは	学校ではよく一人でいるヒロ子が泣いていたことから、学級で今思っていることを書いてもらいそれをもとに話し合いが行われた。
2006年度版 教材集Ⅲ (No.14)	日本に来てからのこと	日系ペルー人のセバスティアンは、自分の思いをうまく伝えられないいらいだちを暴力であらわした。「ペルーに帰れ」と言われたときのつらい思いを周りが受け止め、彼の背景に思いをめぐらし、自分のあり様を問い返す。
2009年度版 教材集Ⅳ (No.15)	こうすけさんの なみだ	

〈人権教育教材集〉子どもの思いに触れながら ～小学校高学年～

教材集	教材名	主な内容
第一集 1998.10.27合冊 (No.1～No.8)	お母さんの国「タイ」	お母さんがタイ人のゆかりは小さい頃からいじめられることも多かった。三年生になってから「タイ」のついでに作文を書いた。
	「もう、こんな手いやだ」	左手肘から義手のゆき子は同記の中に素直な気持ちを書く。応援してくれるなかまの励ましで力強く前に歩き出す。
	笑った人はだれ	目が見えないたかしは、周りの友だちが手伝って学校生活を送っている。ある日たかしが休みと知った子どもたちから笑い声が聞こえる。
	誤解しているみなさんへ	車いすの私が、健常者の人の「かわいそう」といった意識や差別的な見方について触れ、対等な人間としてほしいと呼びかける。
No.9	「先生、なんとかして」	感情が高ぶると自分をたたく癖のあるひろゆきをからかう他の人たちについてクラス会議が行われ、呼びかけ文が作られる。
No.10	まさのりさんとのぞみさんのお母さんの話	障害を持つ双子を育ててきたおかあさんが、これまでのつらかったことやうれしかったこと、障害を持っていることについて語る。
No.11	「何でもかんでも朝鮮人にかぶせるんや」	金沢市在住のカンウルスンさんの話。終戦の時警察に引っ張られたこと、学校に呼び出されたことなどの事件から差別を振り返る。
2003年度版 教材集(No.12)	「やっと言えた」	クラスの中で自分がいじめられていた広樹の話の聞き手。それぞれが広樹のことを話し始め、互いに謝りあうクラスのとりくみ。
2004年度版 教材集Ⅱ(No.13)	みんなに聞いてほしいこと	本当は友達を求めているのに素直に表せなくて周りの子につらく当たる転校生まき。先生の協力で作文を書き、クラスの人に話す。
2006年度版 教材集Ⅲ(No.14)	日本に来てからのこと	日系ペルー人のセバスティアンは、自分の思いをうまく伝えられないいらいだちを暴力であらわした。「ペルーに帰れ」と言われたときのつらい思いを周りが受け止め、彼の背景に思いをめぐらし、自分のあり様を問い返す。
2006年度版 教材集Ⅲ(No.14)	長谷川さんの話	車椅子でひたすらがんばって生活してきた長谷川さんは、高校生の時言われたひとことで肩の力が抜け、気持ちが楽になり自分の人生を楽しめるようになった。
2009年度版 教材集Ⅳ(No.15)	差別された数だけ 差別した数があるはずなのに	

〈人権教育教材集〉子どもの思いに触れながら ～中学校～

教材集	教材名	主な内容
第一集 1998.10.27合冊 (No.1～No.8)	ト(ピョン)さんの話	厳しい差別を受けた在日朝鮮人のピョンさんが盲学校の生徒に話したものの一部。
	インタビュー	転校生の田中さんへのいじめがひどくなる中、田中さんについてのインタビューが行われた。
	二つの文化の合流点で生きること	大学生の金美香さんが在日朝鮮人の子どもたちに自分のことを語った話をまとめたもの。
	本名を名のこと	在日朝鮮人三世の金正美さんが本名宣言した後に書いた作文と日本人生徒の思い。
	祭りばやし	県立盲学校の文化祭で上演された「きよの物語」を再構成したもの。
	仲間とともに	進行筋ジストロフィー症の神島君が地元の中学校で学び修学旅行にも参加した話。
	親の仕事を見つめる	自分の仕事を大切にしながら生きる親の姿とその苦労を見つけてきた中学三年生の作文。
No.9	今までのこと	中学一年の時から非常に荒れていたクラスを中心だった哲朗の作文。
No.10	差別落書き事件に学ぶ	松任市で起こった差別落書き事件の後、配布された資料と当事者Aさんへのインタビュー。
No.11	いつもそうや	人権教育講話の後、本田優さんが書いた作文とそれを聞いた生徒の感想。
2003年度版 教材集(No.12)	父の話	生徒同士のいじめが多発する中学校で、生徒たちに語りかけた吉田さんのお父さんの話。
2004年度版 教材集Ⅱ(No.13)	六十七年ぶりの卒業証書	ハンセン病回復者浅井あいさんの卒業証書授与式に始まり、その生い立ちが書かれている。
2009年度版 教材集Ⅳ(No.15)	わたしの故郷(ふるさと)	